

アンパンマンと知覧

平和を実現することは決して易しいことではないですが、その気持ちを持ち続けることは大切なことではないかと思えます。

オリンピックは「平和の祭典」とも言われますが、8月のパリ五輪卓球女子シングルスで銅、団体で銀メダルを獲得した早田ひな選手が、8月13日の帰国時におこなわれた会見で、報道陣から「やりたいこと」を問われると、彼女は「アンパンマンミュージアム。あとは鹿児島を知覧特攻平和会館に行きたいです」と答えたそうです。

この発言に対して、隣国のネット上で、批判が沸き起こっていました。彼らにしてみると、早田選手が「特攻隊を美化している」と映ったようです。早田さんは、戦争を美化した訳でも特攻隊を賞賛した訳でもありませんでした。「生きていて、自分が卓球を当たり前でできていることが当たり前じゃないということを感じたかった」ので、そのような発言をしたそうです。

そもそも知覧特攻平和会館は、第二次世界大戦末期の沖縄戦で、特攻という人類史上類のない作戦で、爆弾を積んだ飛行機もろとも敵の軍艦に体当たり攻撃をした特攻隊員の遺品や関係資料を展示している所です。

この資料館ができたのは、各地の戦場で戦死された6,371人の特攻隊員の思いを静かに回顧しつつ、命の尊さ・尊厳を無視して、戦闘機に爆弾を装着し敵の艦船に体当たりをするという戦法は絶対にとってはいけない、また、このような悲劇を生み出す戦争も起こしてはならないという情念で作られた施設です。この場所である知覧が特攻隊の出撃地だったので、そこに住む住民の責務だと信じ、資料館を建てたそうです。特攻隊員の体当たり直前の言葉のほとんどは『お母さん、さようなら』『お母さん、お父さん、有り難う。先にゆきます』でした。「祖国の悠久を信じます」「天皇陛下万歳！」は極々少数だったそうです。

早田選手がもう1ヶ所行きたいという「アンパンマンミュージアム」については、あまり話題になっていませんが、アンパンマンを創作した**やなせたかし**さんは「この社会で一番憎悪すべきは戦争だ。絶対にしてはいけない。」



遺愛旭岡幼稚園児が作成した
アンパンマンかかし

と語っていました。やなせさんがアンパンマンを書いたのは「本当の正義」を伝えたかったからだそうです。アンパンマンはヒーローだが情けない。弱点もたくさんある。そして相手を決して殺さないし、「自分はエライ」と自慢しない。アンパンマンは人が喜んでくれることが一番嬉しい。身近な人の幸せを願い、困った人を助けることこそが「正義」だと考えており、一貫して「愛と勇気」を伝えている。(ダビンチWebより)「アンパンマンミュージアム」と「知覧特攻平和会館」をあわせて考えるときに、早田ひな選手は特攻を賞賛したわけでも戦争を美化したわけではないことがわかります。

2024年8月15日